

平成 30 年度、令和元年度 藤白台留守家庭児童育成室の検証結果について

令和 2 年 12 月

吹田市教育委員会

地域教育部 放課後子ども育成課

吹田市立藤白台留守家庭児童育成室「ともだち学級」（以下「藤白台育成室」という。）については、平成 30 年 4 月から社会福祉法人波除福祉会・社会福祉法人燦愛会共同事業体に業務委託し、委託期間については、平成 30 年 4 月から令和 3 年 3 月までの 3 年間としている。

児童福祉法において、事業に必要な水準を確保するため、市町村による事業者への調査、命令等の規定に基づき、運營業務を民間に委託している留守家庭児童育成室（以下「育成室」という。）の運営状況に関して、放課後子ども育成課による検証を行い報告するものである。

～検証方法～

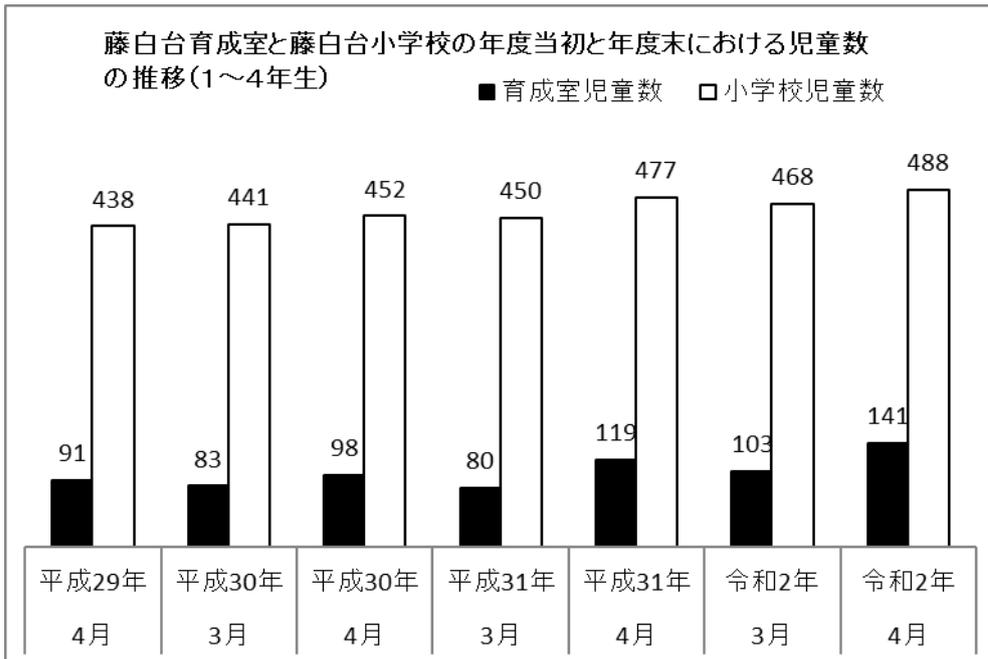
- 1 放課後子ども育成課職員 [担当事務職員、スーパーバイザー（S V ※元公立保育園保育士）] による現地視察（週 1 回程度）
- 2 保護者へのアンケート（委託初年度：年間 3 回、2 年目以降：年間 1 ～ 2 回）
- 3 事業者への聴き取り
- 4 チェックシートを用いた業務の履行状況の確認と評価

1 入室児童数等について

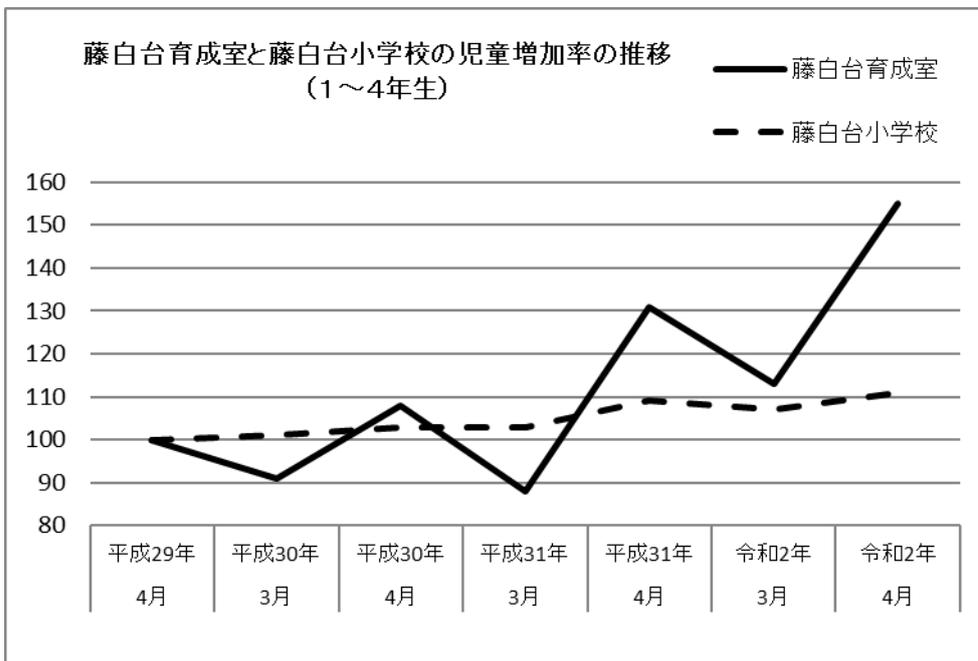
藤白台育成室については、平成 31 年 4 月時点で 119 人在室（学年内訳、1 年：55 人、2 年：25 人、3 年：32 人、4 年：7 人）しており、うち配慮を要する児童（障がいを有する児童）が 3 人在籍している。3 教室で運営しており、1 教室あたりの児童数は 40 人となっている。児童数の規模としては、36 育成室中 22 番目であり、本市の育成室の中では中規模である。

今後の入室児童数は大幅に増加する見込みで、令和元年度は前年度比 21% の増加、令和 2 年度は前年度比 18% 増加しており、実際に令和 2 年度から 4 教室で運営している。校区内の大規模開発の影響により、今後もさらなる児童数の増加が見込まれる。【表 1・2】

【表 1】

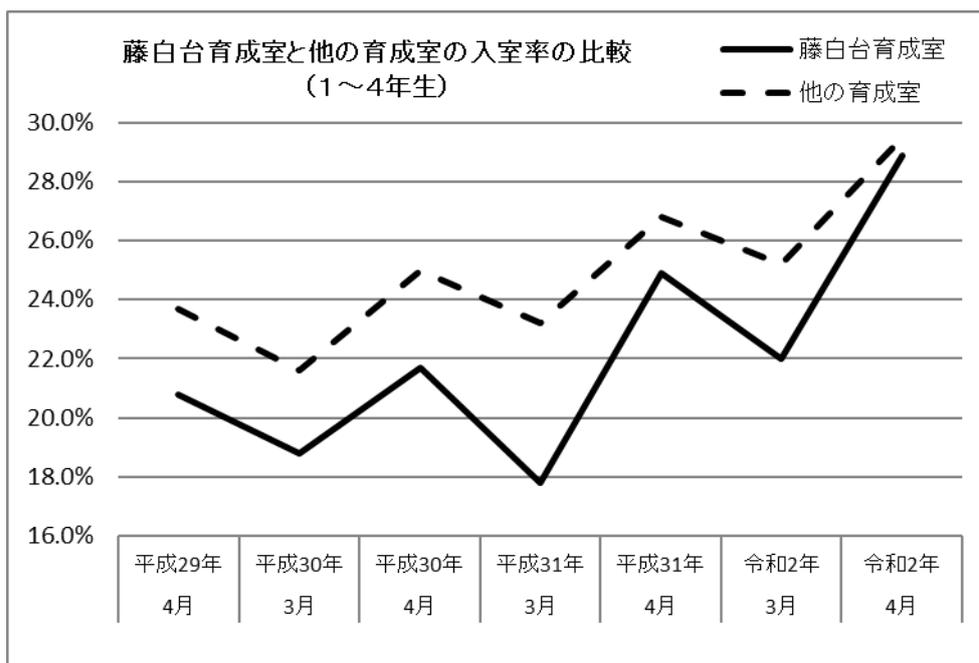


【表 2】



藤白台育成室の平成 29 年度から令和元年度までの入室率（小学校児童のうち育成室を利用している児童の割合）は【表 3】のとおりとなっている。藤白台育成室の入室率は、委託前の平成 29 年度から他の育成室と比べて低い率で推移してきたが、平成 30 年度及び令和元年度 4 月当初は、入室率が前年度より増加しており、さらには他の育成室の入室率の水準に近づいてきている。この値からも保護者が民間事業者である現在の委託事業者による運営内容に不安を覚え、入室を控えていることは読み取れない。

【表 3】



2 保育内容について

(1) 日常における保育の取組について

藤白台育成室の日常の保育の取組としては、仕様書に沿って行われており、児童の健全育成への貢献は十分であると認められる。理由としては、以下を挙げることができる。

ア 児童の登室、休室状況等の把握をしっかりと行っている

育成室内に入室児童名のカードを掲示して、登室したときに児童が裏返すことで常に最新の登室児童の状況を全指導員が把握できており、休室する児童もこのカードを用いて見える化するなど、登室管理をしっかりと行っている。

イ 学級だより等で児童の様子を保護者へ伝えている

学級だよりを毎月初めに発行しており、お知らせや来月の予定に加え、前月の児童の様子を写真付きで掲載している。また、1階と2階の育成室をつなぐ階段の壁一面に写真を張り出すことで、来室する保護者にも児童の様子を伝える工夫をしており、保護者への情報発信もしっかり行えている。

ウ 班活動や遊びを通じた児童の集団作りを行っている

育成室での当番活動やおやつの時間などでは、異年齢で構成した班での活動を行い、児童の個性を尊重しながら、班で協力して、各自の役割を果たすよう促している。当番は班全員で取り組んでおり、6つの当番活動を週交代で行っている。

また、外遊びなどの場面転換時には人数確認を徹底しており、ルールなど確認のうえで移動している。毎月1回は「集団あそび」の取組を実施しており、まずは各クラスの児童で話し合っって集団で遊ぶテーマを決める、それからクラス代表が集ま

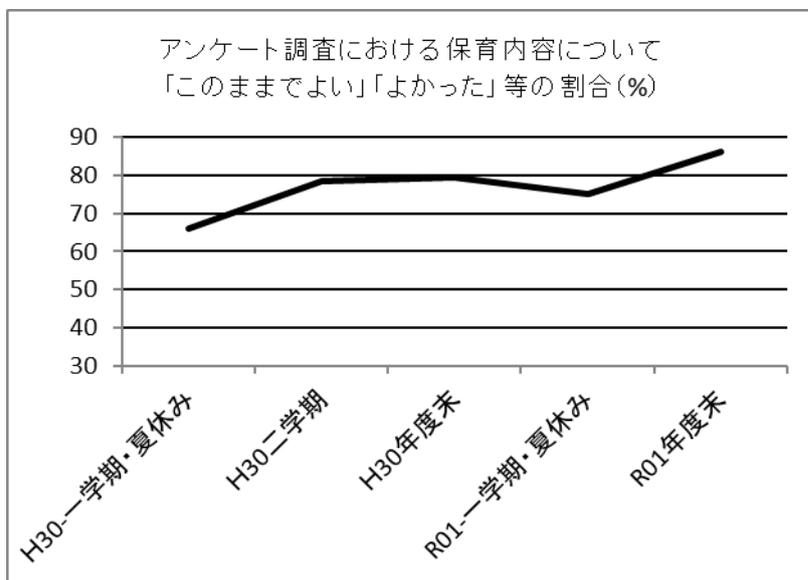
って決める過程を経て実施するなど、小集団の班活動から集団の中での個々の役割や位置づけを明確にすることで、児童の特性を生かした集団作りを行っている。

(2) 保育内容に対する保護者の意見について

保育内容に対する保護者の意見については、これまで行った5回のアンケートの調査結果から、回答があった過半数の保護者は「このままでよい」と回答をしており、平成30年度一学期・夏休みのアンケートから1年間にかけて約14%上昇しており、令和元年度末には約20%上昇している。保護者からの評価が高くなってきていることが読み取れる。

平成30年度一学期・夏休みのアンケートにおいて「子供たちみんなで行う取り組みをもっと増やすべきである。(11.0%[9人])」が、令和元年度末では4.0%[2人]に減少しており、保護者ニーズに真摯に取り組んでいることが読み取れる。藤白台育成室は、委託初年度に隣接する2教室から階上の1教室を増やした3教室での運営をしているが、平成30年度一学期・夏休みのアンケートの自由記述で「3教室での運営となったが、先生が目も子ども達に行き届いている印象を受ける」、「部屋もきれいに掃除されている」という肯定的な意見が当初からあり、しっかりと適切な保育環境を心掛けていることが推察できる。【表4】。

【表4】



(3) イベント（季節ごとのイベントやお誕生日会等）について

クッキング保育は夏休み期間中に週2回程度、お誕生日会は基本的に毎月開催するなど、他の育成室と同程度にイベントを実施している。長期的に取り組む工作や季節感のあるイベントが多いことが藤白台育成室の特色と言える。遊びの広場では3年生が中心となり企画し、班ごとに取り組んでいる。太陽の広場に参加する児童にも参加してもらうことで、児童の自信に繋がっている。

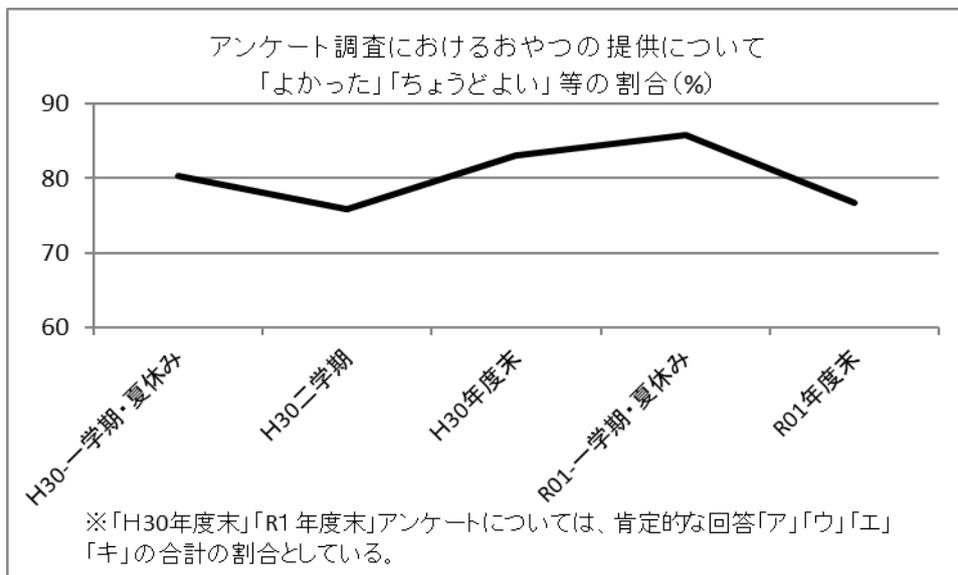
(4) おやつを提供について

藤白台育成室においては、季節の野菜・果物を取り入れたり、栄養バランスを考慮したおやつを選定を基本とし、週に1回の手作りおやつを提供している。嗜好の面において、児童があまり好んで食べなかったおかしについては、その都度指導員間で共有し、今後のメニューづくりで配慮するなど工夫をしている。なお、アレルギーを持つ児童のアレルゲンとなっている原材料を全指導員が把握できるようリストを作成している。また、保護者に事前にメニューや素材の確認をしてもらうことを徹底することで万一の事故を防止している。

(5) おやつを提供に関する保護者の意見について

アンケートの回答では、【表5】のとおり、おやつに関して「よかった」や「ちょうどよい」等の肯定的な意見が、平成30年度から令和元年度にかけて75%以上と高い評価を得ている。令和元年度末の回答結果を見ると、おやつの量に関して「量はちょうどよかった(18.6%[16人])」に対し、「量は少なかった(3.5%[3人])」、「量が多すぎた(5.8%[5人])」という回答もあった。また自由記述欄では「偏食気味だった子供が色々なものを食べられるようになった」や「家では食べないものも食べる機会があり食への興味が増した」といった回答がある一方、「おかわりは1回にしてほしい」というおやつの量に対する回答もあるので、栄養価や腹持ち等の補食の観点を踏まえて、より良い運用方法を継続して検討していただいたい。

【表5】



3 指導員について

(1) 指導員の配置について

藤白台育成室の指導員の配置については、3 教室での運営であるため、教室に配置する指導員が6名となっている。また、配慮を要する児童に対する加配が3名必要であるため、1日当たり9名の指導員の配置が必要。1 教室に常時3名の指導員を配置しており、欠勤等が生じる場合も柔軟な配置対応ができる体制であり、きちんと配置できていた。保有資格としては、正規雇用の指導員は、保育士または教諭の免許及び放課後児童支援員の資格を保有しており、非正規雇用の指導員についてもおよそ半数は、保育士や教諭の資格を保有している。

指導員間の連携について、毎日全指導員での終礼ミーティングで情報共有し、主任のミーティングも週1回実施しているため、主任指導員は育成室全体を常に把握しており、クラス担任への適切な指示ができていていると感じる。主任指導員を中心として解決を図る姿勢が見られ、放課後子ども育成課の職員やSVとも積極的に連携や情報共有を図り、育成室の保育内容の充実・向上を図る努力を感じることができた。

(2) 指導員の児童との関わりについて

現在の委託事業者は、挨拶を基本徹底しており、市の職員が藤白台育成室を訪問した際は、入室する際や通路ですれ違う児童に頻繁に声を掛け、児童から挨拶できるよう心掛けていた姿勢が見られる。挨拶する児童も、大きな声、笑顔であることから、生活習慣の一つとして普段から身につけているものと推察できる。児童とのコミュニケーションも積極的に図っており、指導員と児童との信頼関係がしっかりと構築されているため、藤白台育成室は賑やかな声が交じり合い、楽しい雰囲気を持った育成室となっている。

(3) 指導員に関する保護者からの意見について

令和元年度年間を通じてのアンケートにおいて、指導員についての設問がある。この設問は複数回答可としており、指導員に対して保護者がどのような考えを持っているかを聞く設問となっている。【表6】

回答が多かった順に上位3つを挙げると以下のとおりになっている。

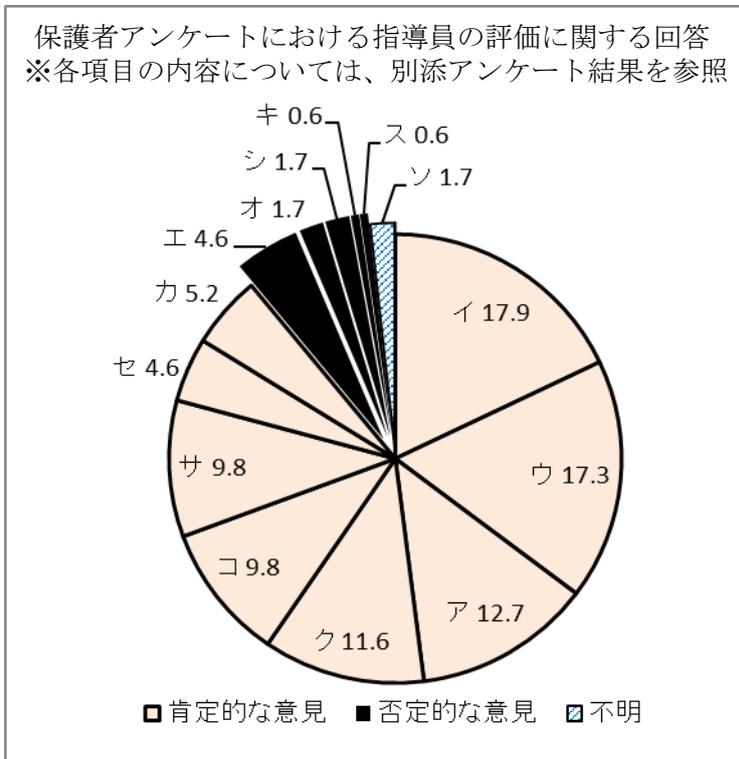
- 1 位…「指導員は児童の輪に入り、積極的に児童と関わりを持っていた」17.9%[31人]
- 2 位…「連絡帳や電話などを使い、育成室での出来事を保護者に適切に伝えることができていた」17.3%[30人]
- 3 位…「児童の相談に乗り、児童の気持ちに寄り添うことができていた」12.7%[22人]

上位の3つの回答で全体の約48%を占めており、さらに指導員に対して肯定的な意見をすべて含めると、全体の約91%と高い評価となっている。また、平成30年度のアンケートでも肯定的な意見は約93%と同様に高い評価であったことから、委託1年目から高い評価を維持していることが分かる。

今後も結果として高い評価を維持できるよう努めるとともに、少数意見ではあるも

の、「一生懸命業務に取り組んでいないように感じた」という意見があるので、更に高い評価が得られるように期待したい。

【表 6】



4 総合的な評価について

(1) 放課後子ども育成課による評価について

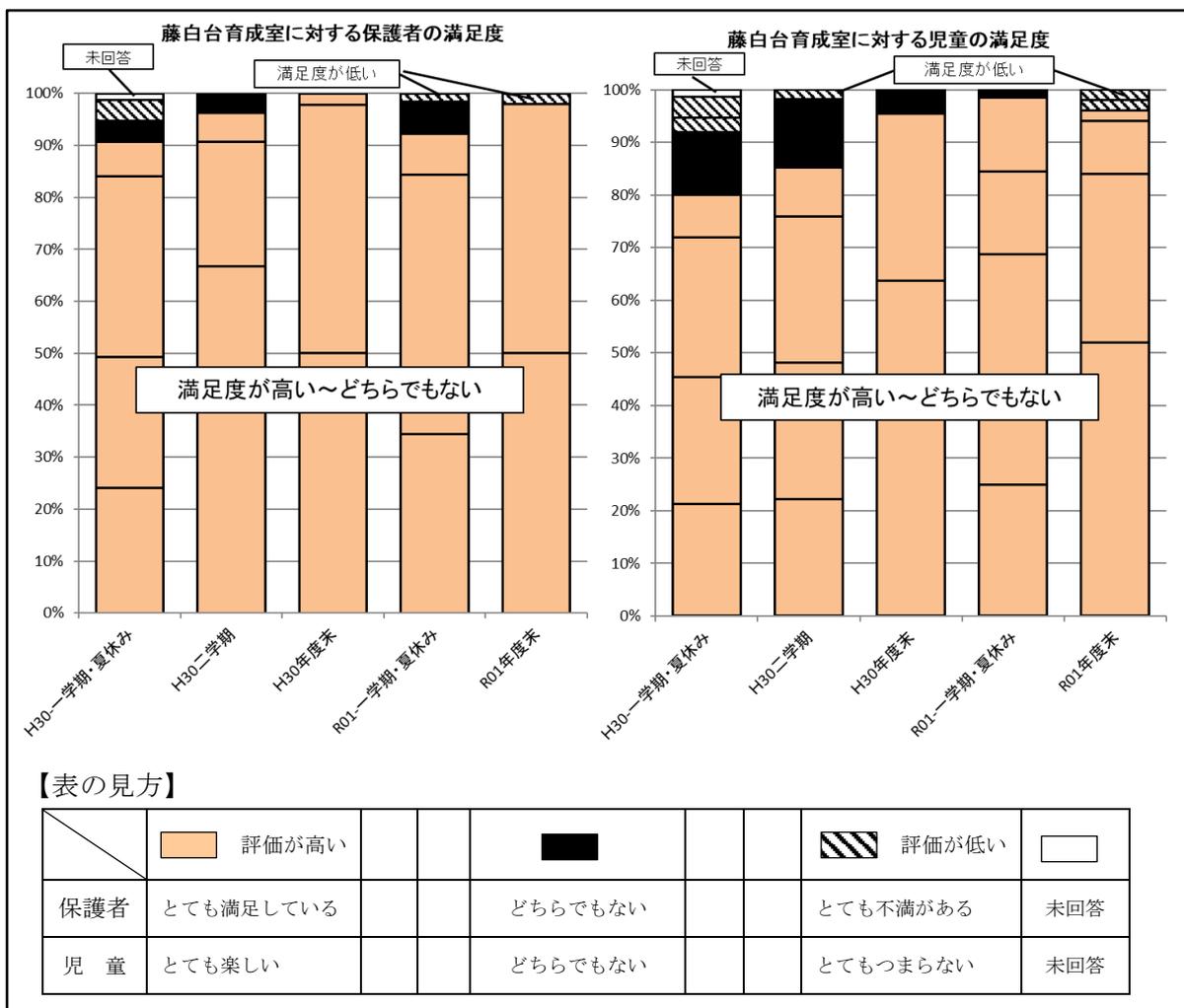
放課後子ども育成課職員（担当事務職員、スーパーバイザー）による現地視察及び事業者への聴き取りによる総合的な評価として、藤白台育成室の運営については、以下の理由により高く評価することができる。

- 1 育成室では、入室児童が笑顔で楽しく活発に過ごしている。
- 2 指導員が常に子ども達とコミュニケーションをとっている。
- 3 連絡事項については、主任指導員、委託事業者、放課後子ども育成課の間で共有が図られており、組織だった運営が行われている。
- 4 育成室の運営では、直営育成室の取組の内容をベースに組み立てられており、新たな取組は児童主体で話し合い決めていく姿勢が見られる。
- 5 保護者への情報提供の場として、定期的な懇談会を育成室全体・個人の両方開催しており、オープンな運営を心掛けている。また、保護者会がないこともあり、情報伝達手段として一斉メールを活用しており、緊急時の連絡体制が構築できている。

(2) 保護者アンケートにおける総合的な評価について

これまでの保護者へのアンケートには、「子ども達にとって藤白台育成室はどの程度楽しい場所か?」を聞く設問と、「保護者にとって藤白台育成室はどの程度満足できるものとなっているか?」を聞く設問を設けている。【表 7】その結果から見える、事業者の運営状況の総合的な評価としては、「保護者や児童からも、高い評価を受けている」と言える。

【表 7】



5 終わりに

これまでの放課後子ども育成課の職員による視察や保護者へのアンケート等による様々な検証、その他小学校をはじめとする関係機関との日々の連携による状況把握の結果、現在の委託事業者は、平成30年度から令和元年度にかけて良好な保育や育成室運営が行われていることが確認できた。

アンケートの自由記述欄においても、「子供は学童を楽しみにしている」「学校の先生とは違った立場の指導員の接し方が、勉強を教えるのではなく一緒に楽しく過ごすをメインで接してくれるので距離が近く感じられている」等、子ども達が育成室を楽しんでいる

様子が書かれた記述を多く見ることができ、また、「安心して子供を預けられる」「友達とトラブルがあったときもしっかり対応してくれた」等、保護者が満足している内容の感想が書かれた記述も多く見ることができる。子ども達と保護者にとって、現在の育成室は「安心できる、楽しい場所である」との認識が広がっている。

現在の委託事業者には、今後とも現在の方針を継続し、保護者、学校、放課後子ども育成課としっかり連携を密にした運営を行い、同時に、普段から子ども達と保護者の声に耳を傾けて、改善が必要などころはないかを丁寧に検証しながら、更なる向上を目指してもらいたい。